

子宮頸がんは「予防できる！」 がん



● しきゅうけい 子宮頸がんとは？

予防ができるがん、「子宮頸がん」。

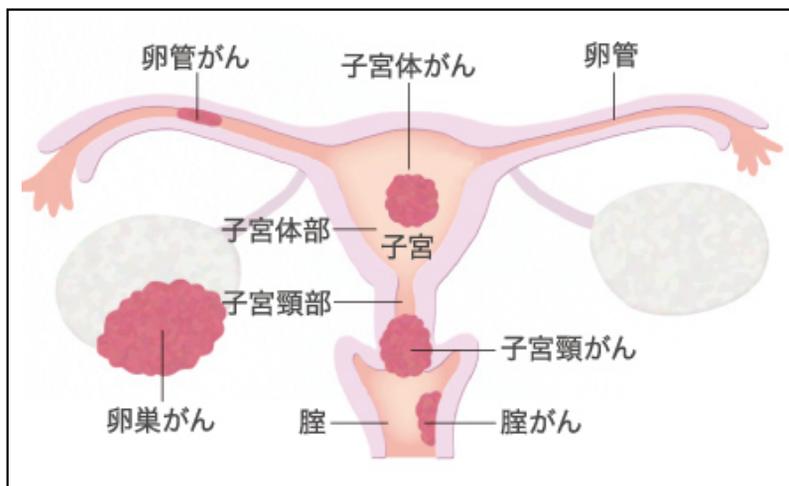
正しい知識を身につけて、大切な自分の身体を守りましょう。

子宮は、女性にしかない特別な臓器のひとつです。この子宮の入り口付近、「子宮頸部(しきゅうけいぶ)」にできるがんを、「子宮頸がん(しきゅうけいがん)」といいます。

子宮頸がんになった場合、子宮や子宮のまわりの臓器を摘出しなければならなくなる場合があります。たとえ妊娠や出産を望まない女性であっても、後遺症が残り仕事や生活に影響するなど、失うものは多大なものです。

また、がんがもっと進行してしまった場合は、生命そのものに対して重大な影響を及ぼすおそれがあります。

しかし、子宮頸がんは原因やがんになる過程がほぼ解明されている、予防ができるがんです。また、定期的に検診を受けることで、がんになる前に発見し、子宮を失わずに治療することが可能です。



図：子宮の構造と女性性器がんの種類

●子宮頸がんの予防ワクチン

子宮頸がんの予防ワクチンは、発がん性HPVの感染から長期にわたってからだを守ることが可能です。海外ではすでに100カ国以上で使用されています。

ワクチンとは、病気の原因となる細菌やウイルスなどをあらかじめ接種しておき、病気を防ぐ方法です。

子宮頸がん予防ワクチンは、発がん性HPVの中でも特に子宮頸がんの原因として最も多く報告されているHPV16型と18型の感染を防ぐワクチンで、海外ではすでに100カ国以上で使用されています。日本では2009年10月に承認され、近く一般の医療機関で接種することができるようになります。

●予防ワクチンの接種方法

半年の間に3回の接種で、最長6.4年間、HPVの感染を防ぎます。ただし、子宮頸がんを完全に予防するためには、接種後も年1回は子宮頸がん検診を受診しましょう。

感染を防ぐために3回のワクチン接種で、発がん性HPVの感染から長期にわたってからだを守ることが可能です。しかし、このワクチンは、すでに今感染しているHPVを排除したり、子宮頸部の前がん病変やがん細胞を治す効果はなく、あくまで接種後のHPV感染を防ぐものです。なお、このワクチンに含まれるウイルスには中身（遺伝子）がないので、接種しても感染することはありません。

子宮頸がん予防ワクチンを接種することでHPV16型とHPV18型の感染を防ぐことができますが、全ての発がん性HPVの感染を防ぐことができません。そのため、ワクチンを接種しなかった場合と比べれば可能性はかなり低いものの、ワクチンを接種していても子宮頸がんにかかる可能性はあります。

子宮頸がんを完全に防ぐためには、子宮頸がんワクチンの接種だけではなく、定期的に子宮頸がん検診を受けて前がん病変のうちに見つけることが大切です。

●まずは子宮頸がん検診を受けましょう

定期的な検診で、前がん病変を発見することができます。年に一度、検診を！

ワクチン接種後も、年に1回は子宮頸がん検診を受けるようにしましょう。

